

2024(令和6)年を振り返る

2025(令和7)年 新年が明けました。今年は、息子夫婦がインフルで帰省出来なくなったので、二人だけの静かでのんびりした新年の幕開けです。昨年は、年明け早々に能登半島地震そして二日には、羽田空港の滑走路で航空機の衝突事故。災害や事故が日常化している今日、穏やかな春の訪れを祈らずにはられません。

今朝、七時半に家を出て朝日を浴びながら初詣に行ってきました。道路はアイスバーン状態で外気温は2℃。寒いと言うより清々しさを気持ち引き締まる感じがします。

初詣は、家から徒歩 30 分ほどのところにある賀茂神社。賀茂神社は、社殿が二つ並び、左が上賀茂神社(左宮・西の宮)で産業・商売守護の別雷神(わけいかずちのみこと)が祭られ、右は下賀茂神社(右宮・東の宮)で安産・子授守護の玉依姫命(たまよりひめのみこと)が祭られています。境内は人で溢れる状態ではありませんでした。しかし、露店も建ち並び初詣には申し分のない様相の中社殿に向かい、上賀茂神社には穏やかな日々をお願いし、下賀茂神社には健康と能登半島に穏やかな日常が戻ることをお願いしました。本来、神社では、「お願い」ではなく「感謝」を伝えるのだそうです。

2024(令和6)年の漢字一字は『習』(ならう)です。アマチュア無線で DX を積極的に行いたかったので英語を、文字をきれいにしたいのでペン習字を、そしてカメラ技術を向上させたくてカメラ教室に行くことを考えていました。初心に戻って丁寧に行えるように習おうとしたのですが、そのいずれもが途中で止めてしまい、残念ながら全くといって良いほど実現しませんでした。同じことを根気強く続けるということが、余り得意ではないようです。三日坊主ではありませんが、三ヶ月程で止まってしまいました。情けない。

結果としては、『書』の一年だったように思います。2023(令和5)年 5 月に四国八十八ヶ寺歩きお遍路から戻り、10 月から始めた紀行文の HP 投稿は 1 年かけて 2024(令和6)年 10 月に書き終わりました。その後、せっかく当時のメモ程度の記録が残っているので、これを下にして、まとめた紀行文としての体裁を持った文章として残しておきたくて加筆を行い 130,000 字の紀行文を書き上げました。更に、其れを下にして出版契約文字数 70,000 字迄削り、11 月 21 日編集者に送付しました。こうしたことから 2024(令和6)年は、『書』のだったように思います。

また、大きな買い物をした歳でもありました。SUBARU の EV 車「ソルテラ」と太陽光発電関連設備 V2H 及び太陽光パネルです。どちらも、人生最後の高額な買い物となりました。投資効果は殆どなく、世の中の流れに沿って、幾らか最先端のものを手に持ったという自己満足に過ぎません。

様々な団体等での講義などは、昨年と同じです。新たに増えたのは、「四国八十八ヶ寺歩きお遍路」に関する講話です。富谷市公民館などからご依頼を受け講義を重ねました。この部分は、想定外の新規の機会になりました。尚絅大学大学院での講義も飛び込みとても嬉しい時間でした。

総括

一昨年(2023年)は、リアルな四国八十八ヶ寺歩きお遍路(2023/03/12~05/06)、そして記憶残す四国八十八ヶ寺歩きお遍路で幕を閉める一年でした。昨年(2024年)は、その四国お遍路を改めてHPに加筆して掲載し(2023年10月から1年間)、更にはそれを下にして書籍出版の原稿執筆に展開し、最終的には70,000字の出版原稿に仕上げ(2024年11月)、来年から本格的に編集作業に入る所まで来ました。こうした意味で昨年は、四国八十八ヶ寺歩きお遍路の第二幕を歩む一年でした。この為、2024(令和6)年は『書』(かく)一年と言い表せます。

地域社会での講義などは、例年と同じ程度の依頼があり行っています。今年になって新たに出てきたのが「四国八十八ヶ寺歩きお遍路」を話題にした内容です。これは想定外の依頼でした。自分用の記録として作成していたスライドショーに多少加筆修正を加え、前段の説明と合わせて約1時間の内容に編集しています。また、長命ヶ丘地区社協から地域福祉に関する内容の講話依頼もあり、ようやく私の考え方に関心を持ってくれる人が出てきたと喜んでいます。

地域活動面では2024/07/18 まちスポ仙台助成金交付決定(66,000円)を受け、珈琲を淹れる道具などを購入できる資金を得て、高齢者の役割発揮場面を創ることが出来ました。これは、私自身が実践する地域活動の展開に大いに役立っています。同時に、様々な考え方をする人もいることを痛感させられることも多々あり、地域活動の難しさや人々の考え方の幅が広いことも思い知らされています。このようなことから、私はリーダーシップ能力が弱いな~と感じています。

民生委員児童委員活動としては、緊急保護要請(8月20日)等を始めとして地域課題が露呈することが多くありました。この為、地域ケア会議などにも出席することも有り、地域社会の様々な課題に対する、行政や伝統的自治組織及び地域住民も含め「地域意識」の脆弱さを痛感しています。

健康面では、大きな体調変化はないものの、身体機能の低下はヒシヒシと感じさせられます。意識して健康づくりに励む必要があるようです。時々お休みもありますが、ラジオ体操第1・第2・第3を行っています。これはとても良い習慣のように思います。今後もしっかり続けて行きたいと考えています。

親戚・家族の面では、正月早々に姉が亡くなり、12月には兄も亡くなった。私も少しずつそうした年齢に近づいているのかも知れない。申し訳ないのですが、私自身としては、特段の深い悲しみはなく、淡々と現実を受け止めているに留まっています。自分もそうした年齢に近づきつつあることの表れなのかも知れません。

総括的にこの一年を振り返れば、地域での様々な活動について、主体的に関わることで見えてきた現実を突きつけられ、少々首をうな垂れることの多い一年と言えます。本当に様々な人がおり、個々人の考え方幅の広さを感じます。地域という狭い空間では、はっきりものを言うことを避け、「ことを荒立てず、核心に触れず、なあなあで済ませる」のが生活の知恵となっているように感じます。結果、自己主張の強い人が幅をきかせてしまいます。いつかは分かるときがくるのだろうと、ズルズルと現状が先延ばしになる。これがリアルな地域の姿になっています。一方で、一生懸命地域のために尽くしている人の存在も見逃せません。その様な方々が日の目を見るようにすること、それぞれが真正面の「地域づくり」なのかも知れないと思っています。

これまで講義で「地域」の大切さを訴えてきたのですが、一筋縄では行かない地域の現状や姿を見せつけられています。また、その様な現実と直面したときに私自身の振る舞いの未熟さも露呈した感じがあります。その様な中で、どのようにして現実を乗り越え、求める地域社会づくりに関われるのだろうか。なかなか簡単にはいかない課題ですが諦めずに頑張らねばと意を新たにしています。

今考えていることは、小さな実践、些細な活動の積み重ねを見て感じてもらい、賛同する方を少しずつ増やしていくことが、遠回りのようで一番着実なのかも知れないということです。小さな実践、些細な活動を丁寧に、加えて感覚的にではなく理論的にも筋のおった実践をしていくことが大切。

また、私は、時間的感覚が少し短くて先走り傾向にあるのかも知れません。この為、正しいことを言ったとしても受け入れられないということが起きてしまうので、周りの人達のテンポに合わせた発言や活動に留意する必要があるようです。正しいことが必ずしも「正解ではない」ことが多々あります。この辺は、私の弱いところなので、正義を振りかざすことなく多少の妥協は受け入れ、求める方向に進んで行ければそれで良しとする、度量の大きさも必要なのかも知れません。私は、器が小さいので、なかなか難しい対応を迫られることになるのですが、何とか自分を殺さない程度に受け入れて行けるように努力したいと思います。

こうした反省点が今年一番の学びだったのかも知れません。未熟者でなかなか成長していないこの一年でした。個人としては、迎合する必要は全く、無視で良いのですが、地域社会の「安全・安心」を築き住みよい生活環境をつくっていかうとすれば、どうしても様々な人達との関わりが出てきて「妥協」や「我慢」が求められます。地域活動や民生委員児童委員活動に関しては、来年も我慢の一年になりそうです。

2025(令和7)年の抱負

新年の漢字一文字は『著』(あらわす)です。四国お遍路紀行を出版する年になります。そこに至るまでは、編集作業という未知の体験が待っています。これはとても楽しみです。また、自分の製品(作品)を人様にお金を出して買ってもらうという体験は75歳にして初めての体験になります。このこともワクワク・ドキドキする未知の世界です。お遍路の時の不安と期待の入り交じったワクワク・ドキドキとは一味も二味も異なる感じになると思います。これらのこと全てを含んだ『著』です。

今年2025(令和7)年6月には、満75歳となり、いわゆる「後期高齢者」の仲間入りをし、正真正銘の高齢者になります。60歳迄は現役として、家族を支える為の仕事に専念。60歳を過ぎてからは、公務員として過ごした経験と大学院で学んだ知識を生かした社会貢献を中心に第二の人生を送ってきました。現役生活では得られなかった貴重な機会を沢山得て、とても充実した第二の人生と言えます。公務員生活及び大学院での学びがどのように生きるのかを体感した期間で、現役生活の答え合わせだったようにも思うのです。その意味では、現役時代の延長線上にあった15年とも言えます。

定年退職からここまでの15年は、東日本大震災や大学教員という時間を経ることで、ある種の「空白」の時間になっています。定年退職から現在までは、これまでの延長線上には無かったことや余りにも激動の時間だったので、精一杯過ぎる時間の流れから、この期間の全てが別次元になっている感があります。この為、退職後から15年を経て始めて「退職後」が来ている感じなのです。この為、60歳から急に75歳になってしまった感があります。

こうして辿り着く75歳は、現役時代及びその延長線上にある生き方から、本格的な高齢期へ入っていく転換点の様に感じます。75歳から80歳迄の5年間は、80歳という本格的な高齢期に入る為の助走期間のように思います。この5年間で現役時代の思考を切り替え、高齢期に適応していく為の術を身につける期間のように思うのです。こう考えたとき、75歳を迎える日は、我が人生においてとても重要な日なのかも知れません。

この様な考え方から、来る満75歳を迎える誕生日は、曹洞宗総本山「永平寺」で迎えたいと思います。永平寺で一泊二日の修行体験です。一日目に永平寺に入り二日目の朝75歳の誕生日を永平寺の朝課(勤行)で迎えるという計画です。

この様なことを人生の中に織り込みながら、思い出と化していく「過去」を築いていき、出来れば豊かな人生だったと振り返られるような人生を歩みたいと思っています。この為にも、「おもいで」貯金をいっぱいして、いつの日かそれを引き出しながら旅立ちたいと思います。